

# 厳しい中でもモノづくりへの挑戦を

令和三年元旦

理事長 北島 憲高



新年あけましておめでとうございます。

世界的なウイルスの猛威と立ち向かい続けた二〇二〇年が明け、引き続き感染症対策をしながらも新たな一年に向けて歩み出す事となりました。

皆様にとってこの一年はどのような一年だったでしょうか？

二〇二〇年はどのイベントも中止・延期となり、自粛と警戒が混沌としていましたが、それはシール印刷業界でも同じでした。

毎年恒例の全国年次大

会も中止となったのを筆頭に、各協組とも勉強会・懇親会は中止に、それでも夏以降は展示会や勉強会もオンラインを含め少しずつ開催されてきました。

ミニ機材展に関しては当初二〇二〇年二月二十九日開催予定がまず中止となり、十月十六日に開催予定だった年次大会の翌日十月十七日に出来ればと検討するも、それも中止となりました。

しかし、開催会場の台東館より、年度内に開催するならば予約前払い金を充当できるとのお話しも頂きましたので二〇二一年三月二〇日(土)にミニ機材展を開催する予定となりました。

ただこれも世情によっては中止せざるを得ないという不安もあります。何れも手を打たずにいる訳にも

いきません。会場の感染症対策はもちろんの事、オンラインでの展示公開や講演会も含め、ベストを尽くせるよう皆で思案しているところです。

さて、このコロナ禍において皆さんの会社でも変化があったことと思います。製造業であるがゆえにリモート業務に出来る割合は少ないかと思いますが、製造の現場においてもこの機会に効率化や高収益化を目指して業務改善を進められた事でしょう。

持てる技術や営業力、そして経営方針などもすべて含めて、各社一丸となって邁進していただきたいと思います。

組合でもオンラインによる勉強会を早々に開催する準備をしております。(第一弾は助成金や各企業に対

するサポートに関する事を、外部より講師の方をお招きして開催予定)。

最後になります。インターネットの普及によってその場には出来なくても物事を進めることは出来るようになります。折角の仲間たちや出入りの営業さんと直接会話すると、やはり直に同じ場所での対話をするのはオンライン会議とはまた違う空気感もあり、得られるものが違うと改めて感じるようになりました。

また皆さんと元気に顔を合わせられるよう、それまでは厳しい情勢の中でも踏ん張って新しいもの作りにも挑戦していきましよう！



## 専務理事 本間敏道



新年明けましておめでとうございます。一年前は今日のこのコロナ禍を一体誰が予想したでしょうか。オリンピッククイヤーとなるはずが、一年延期となり、それさえも赤信号が点つています。

政府の後手、後手の政策により、どれだけの人が影響を被ったかは計りしれません。まさに一寸先は闇とはよく言ったものです。

ラベル業界も大きな打撃を受けた企業も多く、各種の助成金、補助金、融資などで凌いでいますが、今後収束が長引けば、さらに影響が拡大することは必至です。

組合としても融資や補助金などの最新情報を迅速に組合員に発信してきましたが、研修会やセミナーなどの開催も難しい中、でき

ることは限られています。組合ホームページや機関紙「ラベルニュース」を通して「いち早く情報の発信に努めてまいります。」

これまで二度延期となった「ラベル関連ミニ機材展」も、三月二十日に開催予定ではありますが、これもコロナ次第ということになり、見通しはかなり厳しくなっていますが、開催に向けて全力で取り組んでまいります。

残念ながら昨年四十年以上続いた組合員が廃業となりましたが、事業承継の問題も今後大きな課題となっており。組合では数年前に「BCP(事業継続計画)」についてセミナーを開催し、「簡易版のBCP」を作成しております。

今回のコロナもまさにBCPであり、こうした非常時にどのような対策をとっていたのかを検証する良い機会でもあります。

十年前の東日本大震災、毎年のように起こる台風などによる洪水被害、そして今回の新型コロナウイルスなどの感染症による被害

は、今後も起こり得ます。ウィズコロナ時代に合ったBCP対策が重要になってきます。

## 東京都中小企業団体

中央会会長 大村功作



明けましておめでとうございます。令和三年の新春を迎えるにあたり、皆様を謹んで年頭のご挨拶を申し上げます。

昨年の我が国経済は、新型コロナウイルス感染症という脅威により、かつてない経験を強いられ、未曾有の苦境に陥りました。人の流れが止まり、経済活動が大きく制約を受けたことで多くの企業が業績不振にあえぎ、組合の活動も縮小を余儀なくされました。

こうした危機に際して東京都や国が講じた様々な支援策により、景気は一部

に持ち直しの動きを見せましたが、未だ先を見通せない状況にあります。

このような状況の下で本会は、中小企業新戦略支援事業(団体向け)(新型コロナウイルス感染症緊急対策)や新しい生活様式に対応したビジネス展開支援事業等の新型コロナウイルス対策事業を実施するとともに、「感染防止徹底宣言ステッカー」の取得やテレワークの推進等、東京都や国のコロナ関連施策の普及に努めました。

さらに本会は、技術・サービスの高付加価値化に取り組む中小企業・小規模事業者を支援する、明日にチャレンジ中小企業基盤強化事業等を効果的に実施しました。本年も引き続き、東京都に対して事業の継続を要望し、組合や中小企業・小規模事業者の支援策のさらなる充実を図ってまいります。

また、組合産品の販路拡大、組合や業界の知名度向上の場として全国一体となる恒例のイベント「組合まつり in TOKYO」につ

きましては、コロナ禍に対応するヴァーチャルとリアルが融合した展示会として開催いたします。

開催期間は一月二十六日から二月二十五日となっております。コア期間の一月二十六日、二十七日には東京国際フォーラムに「展示スペース」を設置して、出展者の商談やマッチングの機会を設けました。多くの方々に是非とも「組合まつり」のサイトを閲覧いただきたいと存じます。

今年も東京二〇二〇オリンピック・パラリンピック競技大会の開催イヤーとなります。本会は東京二〇二〇大会を契機に組合や中小企業の受注機会の拡大を目的とする「中小企業世界発信プロジェクト二〇二〇」を推進するとともに、

東京二〇二〇大会の開催機運のさらなる醸成に取り組み所存です。

今年の干支は『辛丑 かのとうし』。丑の年は「我慢を重ねること、これから発展する前触れが現れる年」になると言われています。会員の皆様が厳しい現

状に耐え、飛躍のきっかけとなる年となることを願ってやみません。

本会は、今年も「相互扶助の精神を誇りとし、協同の力で中小企業、地域社会の未来を切り拓くことを使命とする」という基本理念に基づき組合巡回・相談業務さらに各種事業の効果的な実施に努め、皆様のお役に立てるよう全力で取り組んでまいります。

結びに、本年が皆様にとりまして、輝かしい年となりますことを心からお祈り申し上げます。年頭のご挨拶といたします。

**協賛会会長 服部 真**



明けましておめでとうございます。旧年中は協賛会各社をお引き立て賜り、厚く御礼を申し上げます。

本年も引き続きご愛顧賜りますよう、よろしくお願いいたします。

さて、昨年は新型コロナウイルスの影響により、全世界で予想だにできなかった出来事が次々と起こった、まさに激動の年でありました。外出自粛など制約の多い日々の中で生活にさまざまな支障をきたした方、あるいは例年のような経済活動がままならず、

経営戦略そのものを見直さざるを得なくなつた企業は少なくありません。感染拡大直後には日本の実質GDPは戦後最大のマイナス成長になるなど、我々を取り巻くビジネス環境は非常に厳しい局面にさらされました。

しかし一方で、今年は昨年とはまた少し違う景色が見えてくるのではないかと、いう期待も持っています。難局に直面したからこそ、我々の知恵と工夫、不屈の精神が社会に大きな変革をもたらす可能性が出てきているのも事実です。リモートワークの導入促進をはじめ、デジタル技術によつて

業務やビジネス手法を変革するDX（デジタルトランスフォーメーション）が加速し、働き方や価値観も大きく変わりました。ソーシャル・ラベル業界もこうした社会の変化を新たなチャンスと捉え、“ニューノーマル時代”の市場ニーズをいち早くキャッチしつつ、自らも大胆に“チェンジ”していく勇氣を持たなければ

ならないと考えています。日本国内でも海外でも、企業は何とか経済を動かそうとしています。また、延期となつた東京オリンピック・パラリンピックの開催が実現すれば、国内の経済回復も一層加速すると思われれます。今年も丑年で「発展の前触れ」、すなわち新たな芽吹きを迎えようとする年と言われています。依然として先行き不透明な中ですが、業界一丸となつてこのチャンス新たな成長へのステップとしていきたいと思います。

最後に、皆様の今後のご発展とご繁栄を祈念いたしまして、新年の挨拶とさせていただきます。

## 第3回緊急アンケート調査

### 87%が売り上げの低下に

### 長引いた場合の対策はなし

「下がった」と回答した内「最も回答した人の理由については、「申請手続きが煩雑なため」が二社(十八%)、「申請の条件を満たしていない」が九社(八二%)でした。

問3の今年五月から七月と比較した場合は、「いくらか上向いてきた」が十八社(八二%)、「変わらない」が三社(十四%)、「むしろ落ち込んでいる」が六社(二八%)でした。

問7の「在宅勤務、テレワークを実施していますか」については、「実施していない」が十七社(七七%)、「実施している」が二社(九%)、「過去に実施した」が二社(九%)でした。

問4の政府や都の緊急融資や雇用助成金を申請したか「は、「申請している」が四社(十八%)、「申請していない」が十一社(五〇%)、「すでに受給した」が七社(三二%)でした。

問8の「実施していない理由」については、「業務が在宅、テレワークに不向き」が十六社(七二%)で、製造業が在宅勤務、テレワークが出来ないことを裏付けており、「営業のみ実施している」と回答したところが一社あった。

問5の「申請している、受給している」と回答した内容については「持続化給付金」が七社(六四%)、「雇用調整助成金」が四社(三六%)、その他が「銀行、信用金庫より無利息融資」「JOT関連融資」「テレワーク助成金」「三年間無利子借り入れ」「感染症対応緊急融資」などでした。

問9の「今後さらに収束が長引いた場合、何か具体的な対策を考えていますか」では、「考えている」が四社(十八%)、「特に考えていない」が十七社(七七%)でした。

問1の八月から十月までの三か月間の売り上げについても「低下した」が十九社(八七%)、「変わらない」「増えた」がそれぞれ二社(九%)でした。

「考えている」と回答したところでは、「リストラせざるを得ない」「未経験のこ

対処していくしかないのでは」「新たな売り上げ手法を計画しているが、この実践と倍増」「従業員の安全確保とコロナに罹患した場合の対策」「社内で『コロナ時代の新たな働き方』を策定し(今現在は第五版)運用している」などの回答がありました。

今回の調査では、長引く新型コロナウイルスの影響で、じわじわと影響を受けてきていることが実感できますが、やはり小規模・零細企業ほどその影響は大きく、その対応についても具体的には何も講じていないのが現状。

今回の新型コロナウイルスはまさに「BCP(事業継続計画)」そのものであり、非常事態に強い企業の経営手法」が問われることになり、すでに組合では五年前からこのBCPに関する講習会も開催し、「簡易版BCP」も作成しているが、もう一度この「BCP」を見直し、早い時期に研修会を開催する方向で検討しています。

新型コロナウイルスによる「緊急アンケート調査第三弾」は、昨年十一月に実施され、このほどその調査結果がまとまりました。

調査は組合員四十五社に対して実施され、二十二社から回答が寄せられ、回答率は四十九%でした。

集計結果

問2の「低下した」「増えた」と回答した中身は、「低

問6の「申請していない」

とでもあるので、その都度

## 第一一五回ラベル会

### 妻鳥氏が初優勝

第一一五回ラベル会は、十一月十一日(水)に「佐倉カントリー倶楽部」に於いて三組十二名で開催され、マルウ接着の妻鳥洋一氏が並みいる強豪を抑えて初優勝しました。二位には坂崎彫刻の清水二郎氏、三位には日本ラベルの平山良一氏が入りました。

【妻鳥洋一氏談】当日朝は少し肌寒い気温でしたが、昭和レーベルの大澤さんの車に同乗させていただき、ゴルフ場に向かい、七時過ぎに一番乗りで現地に到着、

例によって朝食をとりながら少しアルコールも頂き、皆さんの到着を待ちました。今回はコースに到着してからたっぷり時間があつたので、準備も万全でリラックスしてスタートできました。スタートロングホールのティショットはいつもであれば少し硬くなり、スライスになることが多いのですが、なんとフェアウエイ真ん中へのナイスショット

ト、気持ちよくスタートすることができました。

ところがセカンドショットがまさかのフェアウェイ真ん中の吹き流しに直撃、ポールは左OBぎりぎりに残っていました。横に出して四打目が乗らずに五オン二パットのダボスタート。同伴の実力者恩田社長が

ナイスパーでスタートでしたので、迷惑をかけてはいけないと思っておし、少し緊張感をもってプレーを心掛けたところそのおかげでいつもは左右に曲がるドラ

イパーショットが影を潜め安定したショットが打てたように思います。トラブルもありましたが午前中は何と四四で上がることが出来、ひじょうに満足できる内容でした。少しあわただしい昼食の後、後半スタート。上々のゴルフでカートにあるリーダーダズボードを確認すると上位に名前があり、念願の優勝も狙えるスコアでした。そして優勝を意識した最終ホールで力の入った一打目は左足下がりの斜面に落下、二打目がまさかのOB

となり、バタバタして結果九打となり後半は五二に。

これではだめだと肩を落としてコンペルムに入ると十七のハンディに助けられ、まさかの優勝となりました。一一五回を数える歴史あるラベル会で優勝できることは非常に光栄だと思います。ゴルフは本当にメンタルとの闘いだと感じさせられました。

同伴の恩田さん、大澤さん、村田金箔天野さん有難うございました。最後になりましたがコロナ過で業界も大きな影響を受け、厳しい一年でしたが、来年こそ良い年になるよう協賛会としても頑張ります。

組合恒例の「ラベル関連ミニ機材展」は、新型コロナウイルスの影響で昨年二月の開催が十月に延期となり、さらに年次大会の中止により開催が再延期となりましたが、今年の三月二十日(土)に、浅草の都立産業貿易センター台東館に於いて開催されることが決まりました。

すでに出展申し込みが終わっていますが、今回こそ開催できるかは、新型コロナウイルスの感染状況次第というのですが、主催者としては感染予防対策に全力をあげて、何とか開催したいと思っていますのでご協力をよろしく。



115回ラベル会 2020.11.11 佐倉カントリークラブ

ラベル関連ミニ機材展

3月20日に開催予定

浅草産業貿易センター

# 振り返れば五十年 私のラベル業界半世記

専務理事 本間 敏道(6)

ラベル新聞での十五年間、私の現在の人脈の大半を築いた期間でもありません。今回と次回に亘ってその様々な人との出会いを書いてみたいと思います。

シール業界は当時東京の二組合、東海北陸、京都、大阪の五組合でしたが、昭和五十一年三月に北海道シール印刷協同組合が十四社

で、連合会六番目の組合として発足しました。

とにかく初代理事長となつた横山さん、専務理事の伊辺さん、そして誰よりも人望のあつた小泉さん達執行部の仲の良さは特筆すべきものでした。

そのまとまりの良さは他の組合には見られないもので、創立総会に出席し、懇親会で乾杯の音頭に指名された私は思わず「北の家族協同組合」と言つてしまったほどでした。

特に小泉さんは「小泉の父さん」と皆から慕われ、

私も本当に可愛がっていた。大きくなりました。その後ほどなくして小泉さんから「今度ラベル新聞を組合として購読して、組合員に配布することに決めたから」と連絡を頂き、新聞として評価されたことが嬉しかったことを昨日のように思い出します。

昭和五十六年には数の子の証紙を組合として共同受注し、これを組合員に分配したが、証紙であるため偽造防止にも役立ち、納期も確実にあると双方にとってメリットが多かつたため、その後タラコ、ホタテの共同受注へと広がりました。

この北海道の組合設立が起爆剤となつて、神奈川、九州、東北、四国の組合設立につながつていったのです。昭和五十一年五月には、「セルフラベル特許失効」という大きな節目がありました。

昭和三十六年から業界を

しい年賀状を頂いていましたので、他の誰から褒められるよりもうれしく感激したものでした。

その後は大阪に出張した際には時々訪問させていただきました。山田さん亡き後も「私の年賀状」は、二代目に引き継がれ、毎年これを楽しみにしている人も多かつたようでもその一人でした。

二人目は大阪シーリング印刷社長の松口豊氏でした。確か新年号の座談会に出席して頂いたときに、「大阪シーリングのことを批判する人が多いが、セルフラベル特許が昭和五十一年に切れることは初めからわかつていたこと。だから私は血の小便をしながら懸命に努力してきた。それをとかく言われることはない」と聞いたときに、私はなるほどと納得できました。ちなみにこの「セルフラベル特許」は、大阪シーリング印刷創業者の松口兎吉氏が取得したものを連合会に譲渡し、組合員が使用できるようになったのです。

(続く)